

# 燕市西蒲原郡小教研 算数部

部長 板垣 英樹 (分水北小学校)

## 1 研究主題

基礎・基本を生かした活用の工夫 ～算数的活動を通して～

## 2 研究の概要

(1) 第1回研究会 期日：6月1日(水) 会場：弥彦村立弥彦小学校

① 研究の内容 研究主題にかかわる授業研究(「5年図形の合同と角」)及び研究協議

指導者 新潟県立教育センター 指導主事 田中 範克 様

授業者 弥彦村立弥彦小学校 鈴木 勉 教諭

② 授業提案(◎)や研究協議の視点(○)から明らかになったこと

◎基礎基本を生かした活用力の育成をめざした算数的活動の有効性の提案

○算数的活動「ぴったんこゲーム」のもつ、自分の考えを整理し、筋道立ててまとめることへの有効性について

・ネーミングや電子黒板の活用により児童の学習意欲の高まりが感じられた。活動を通して着目する要素(辺の長さ・角の大きさなど)や説明の不足していることに児童は気付いていった。情報の提示や条件を与えるなどすることにより、算数的活動が図形の構成要素に着目させることにつながる事が明らかになった。

○「児童の活動中心の主体的な」「児童にとって楽しい」「児童にとってわかりやすい」算数授業について

・電子黒板を活用した教師の説明が分かりやすく、教えることと考えさせることが明確になっていた。内的活動・外的活動の両方が組み込まれており、有効なつぶやきや学び合いの姿が見られ、主体的な学習につながったことが明らかになった。

(2) 第2回研究会 期日：11月30日(水) 会場：燕市立燕北小学校

① 研究の内容 講演会 演題「算数的活用のあり方と活用力の育成について」

講師 新潟県立教育センター 指導主事 田中 範克 様

② 講演の内容

○教師中心の教え込み、説明中心の授業は指導する立場の指導者論である。新学習指導要領を受け、今後は子供主体の活動(算数的活動)中心の授業、すなわち学習者論に立った授業への転換が必要。そのために教師は『体験』『表現』『理解』が循環するような指導を組み、実感ある納得と理解を生み出すことが大切である。

○学んだことが活用できる素地づくりのポイントは学習の「ふり返り」と「まとめ」。ふり返りとまとめは表裏一体であり、このような評価活動自体が学習活動でもある。学習のまとめが学習内容を定着させ、既習事項活用の下準備となる。